

巻 頭 言

一般社団法人 日本数学会 理事長
寺 柚 友 秀

一般社団法人日本数学会は皆様ご存じのとおり、1877年、神田孝平により始められた東京数学会社を母体として発展、継承された団体で、専門的な学会組織としては日本で初めての学会です。日本で初めてのカンパニーといわれている亀山社中が坂本龍馬により創設されたのが1865年ですから、そのわずか12年後に当会が学術的組織として設立されたことを思えば、当時から、いかに日本には数学の素養が根付いていたかを伺い知ることができます。実際、第一回目の会合の参加者は半数以上が和算家であった、と記録にはあります。学会活動を通じてお互いの情報を交換するというのは西洋から輸入した考え方ではありますが、錚々たる和算家が流派の枠をこえて一堂に会したところに東京数学会社の意義があるように思います。現在、日本の数学研究者の多くが日本数学会に属しており、春の年会と秋の秋季総合分科会では、すべての数学の分野において、日本中の数学研究者たちが集まるわけですから、流派の枠をこえた数学上の交流の精神がいまの数学会にも受け継がれているといえます。

さて、学会の仕事はいくつもあります。外に向けての情報の共有という意味で、なくてはならないのが出版業務です。出版物のなかでも邦文雑誌「数学」と欧文雑誌「Journal of the Mathematical Society of Japan」は根幹をなすものです。とくに世界的視点なレベルを決める、重要な意味を持つ、数学会の欧文雑誌はきわめて高いレベルにあるといえます。日本中には「学会」と正式にみとめられている団体が多くあります。「学会」と正式に認められるためには「学会誌」を発行していることが条件となります。先日、とある会議で「学会」によっては「学会誌」を発行することでさえ大変なところもある、ということを知りました。数学会のことを思うとき、雑誌「Journal of the Mathematical Society of Japan」はまさしく誇るに足る雑誌であることを実感しています。

これらに加え、近年ますます重要となってきた活動に海外との交流があります。そのひとつに、昨年からは東南アジア数学会との協力ではじまった加藤敏夫フェローがあります。加藤敏夫フェローは故加藤敏夫カルフォルニア大学バークレー校名誉教授の遺贈金を基金として始められたもので、東南アジア在住の若手数学研究者を対象に日本に一年間の研究滞在をサポートするものです。将来の東南アジアの数学の担い手となるべく、日本で研究だけに集中できる機会を、と作られた制度です。昨年は第一回目の公募となり、広く募り、大変有望な方が選考されました。募集にあたり、ポス

ターや広報の力もたしかに大きなものではありませんが、多くの方は、研究者同士の口コミがあって初めて真剣に考えてくださるように思います。日本数学会がとりもつ国際交流といっても、基本は人と人とのつながりで、やはり会員の皆様方の、研究を通しての付き合いが基礎にある、ということを実感しました。今年も加藤敏夫フェローの応募が9月30日を締め切りとして行われています。東南アジアにつながるのある方にはこの場を借りて、若い優秀な方の応募を周りに勧めていただければ大変ありがたいと存じます。

そして何をおいても、数学会の本来的使命を考えたときの一番の役割は、冒頭に述べた、年に2回の学会です。私たちが学生の頃と比べますと、現在では研究集会の数や種類も多くなり、学会にわざわざ行かなくとも、自分の成果を発表でき、研究交流できる機会が増えてきています。専門的な研究集会であれば、専門的な話をしても、十分に理解してもらえますでしょう。こういう時代にあって、研究集会とは一味ちがう数学会の存在理由がもしあるとすれば、自分の分野と少し離れた数学に接する機会が持てるというところではないでしょうか。一般講演の空き時間の枠に、つつい他の分科会を覗いてしまう、という思わぬ効果があったりするものです。

現代は数学自体が技術的に難しくなり、専門化は進む一方です。しかし数学者として生をうけたからには、多くの興味深い数学に出会わないのは余りに勿体ないのではないのでしょうか。それぞれの数学にはそれぞれの面白みがある。自分の分野とは離れているから、といった色眼鏡はこの際すてて、面白いとこだけもらっちゃおうじゃありませんか。地方の学会であれば、郷土料理と地酒がまっています。学会は講演を聞くために行くのではなく、人に会いに行く、という目的で来る人も少なからずいると思います。忙しさの合間をぬって短期間の滞在を思いきり楽しんでいる人もいます。学会の楽しみ方はひとそれぞれ。正しいやりかたはありません。日本数学会は極上のプログラムをとりそろえて皆様をお待ち申し上げております。いつもとちがう新たな風を、自分の中に吹き込みたいとき、数学会があることを思い出してください。

これら数学会の活動は、先輩たちから受け継いできたものですが、たとえば学会の会場設定、雑誌の刊行など、多くの会員の方々のボランティアな力によって支えられています。その意味で相互扶助の精神は現在も数学会の中に健在に息づいているといえます。日頃から多忙な本来の業務の中から貴重な時間をさいいただき、また、様々な形でご協力いただいております会員の皆様方には、この場をお借りいたしまして心からのお礼を申し上げます。微力ではございますが、数学の発展と振興に向けて尽力いたす所存でございますので、今後とも変わらぬご理解、ご協力をお願い申し上げます。